



平成 30 年 1 月 31 日

各 位

上場会社名	株式会社スクロール
代表者	代表取締役会長 堀田 守
(コード番号	8005)
問合せ先責任者	執行役員 経営統括部長 杉本泰宣
(TEL	053-464-1114)

特別損失の計上及び連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 30 年 3 月期第 3 四半期決算におきまして、下記のとおり、のれんの減損処理（連結決算）及び当社が保有する連結子会社株式の減損処理並びに当該連結子会社への貸付金に対する貸倒引当金繰入（個別決算）を行い、これに伴う特別損失を計上しましたのでお知らせいたします。

また、本件処理に伴い最近の業績動向などを踏まえ、平成 29 年 4 月 28 日に公表しました平成 30 年 3 月期通期の連結業績予想の修正を行いましたので、併せてお知らせいたします。

記

I 特別損失の計上について

1. 当該事象の内容

① 連結決算における減損損失の計上

当社の連結子会社である株式会社ナチュラピュリファイ研究所及び株式会社 T & M において株式取得時に想定していた収益が見込めなくなりました。この状況を踏まえ、事業計画の見直しを行うとともに、株式会社ナチュラピュリファイ研究所と株式会社 T & M が創出する将来キャッシュ・フローを見積もった結果、当該のれんの未償却残高の全部を減損処理することといたしました。以上の結果、1,710 百万円（株式会社ナチュラピュリファイ研究所 858 百万円、株式会社 T & M 851 百万円）を減損損失として計上いたしました。

② 個別決算における関係会社株式評価損及び貸倒引当金繰入額の計上

上記、連結決算におけるのれんの減損処理にともない、当社個別決算においても、連結子会社である株式会社ナチュラピュリファイ研究所及び株式会社 T & M の株式について、関係会社株式評価損 1,307 百万円（株式会社ナチュラピュリファイ研究所 732 百万円、株式会社 T & M 574 百万円）を計上いたしました。また、当該連結子会社の債務超過分に対する貸付金について貸倒引当金繰入額 748 百万円（株式会社ナチュラピュリファイ研究所 340 百万円、株式会社 T & M 407 百万円）を特別損失に計上いたしました。

2. 当該事象の損益に与える影響額

(1) 連結決算

当該事象により発生する特別損失 1,710 百万円を平成 30 年 3 月期第 3 四半期に係る連結財務諸表の減損損失（のれん）として計上いたしました。

(2) 個別決算

当該事象により発生する特別損失 2,055 百万円を平成 30 年 3 月期第 3 四半期に係る個別財務諸表の関係会社株式評価損及び貸倒引当金繰入として計上いたしました。

II 平成 30 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正について

平成 30 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 60,000	百万円 1,700	百万円 1,800	百万円 1,200	円 銭 35.26
今回修正予想 (B)	60,000	1,300	1,400	△1,000	△29.34
増減額 (B-A)	-	△400	△400	△2,200	
増減率 (%)	-	△23.5	△22.2	-	
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 3 月期)	58,864	1,242	1,350	672	19.81

修正の理由

平成 30 年 3 月期連結業績予想につきましては、売上高は連結子会社の事業成長や新たに子会社を取得したことに伴う純増により計画どおりに推移する見通しです。利益面におきましては、健粧品事業において新たに子会社化した 3 社（株式会社ナチュラルピュリファイ研究所、株式会社 T&M、株式会社 キナリ）の販売促進費が当初想定を上回ったことや、上記 2 社ののれんの減損による特別損失の計上もあり、前回発表数値を下回る見通しとなりました。

※ 上記予想は本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上